

海外トピックス

静岡県海外駐在員報告

2026.

2

静岡県企画部地域外交課



【台北市で開催した静岡春セミナー】

東南アジア

静岡県・グジャラート州友好協定1周年記念イベントに参加（インド）

シンガポールの旧正月とみかん

中国

「今」だからこそ伝わる静岡県の熱意 ～中国旅行社ファミトリップを開催～

韓国

チェジュ航空静岡路線の好調と「静岡の価値」

台湾

台湾日本人会・台北市日本工商会の新年会に頼清徳総統が参加

台湾炎上事例から見る「繁体字」への強い思い

東南アジア駐在員報告

駐在員：村川 未帆

行政

静岡県・グジャラート州友好協定1周年記念イベントに参加（インド）

本年1月、インド・グジャラート州において、印日友好協会設立50周年および静岡県・グジャラート州友好協定締結1周年等を記念し、「ゴールド・フェスト（メガ・ジャパン・フェスティバル）」が開催され、平木副知事が記念式典や関連イベントに参加した。

開催期間中には、本県の抹茶を使ったワークショップや、ヤマハ株式会社主催のコンサート等が行われ、多くの来場者で賑わった。現地の緑茶輸入業者によると、デリーやムンバイのカフェでは、若者を中心に抹茶スイーツやドリンクの人気の高まっており、高価でも購入する層が増えているという。グジャラート州ではカフェの数はまだ多くないものの、抹茶への反応は良好であり、本県産抹茶の販路開拓の好機であると感じられた。

また、その他関連イベントとして、浜松まつり関係者が浜松の伝統的な凧揚げを実施した。グジャラート州では、ヒन्दウ教の祭日であるウッタラヤーン（1月）に、州全体で凧を揚げる風習があり、凧揚げ文化が深く根付いている。浜松市においても浜松まつりで凧揚げが行われるなど、凧は地域文化の象徴である。共通する文化を通じた交流として大凧が揚げられ、現地住民も大いに盛り上がり、文化交流を深める機会となった。

当事務所では、今後も、幅広い分野で交流を後押しし、両地域の絆をさらに深める取組に努めていく。



経済

シンガポールの旧正月とみかん

本年の旧正月（2月17日、18日）に向け、シンガポールの街は1月初旬から中国式の正月デコレーションに彩られ、赤を基調とした装飾や、正月用の特設コーナーが各地に設けられている。こうした特設コーナーで特に目を引くのが、みかんである。

シンガポールでは、新年の挨拶の手土産として「みかん」が欠かせない存在である。みかんは「富（金）」と「繁栄」を象徴する縁起物とされ、親戚や知人宅を訪問する際には、幸運を届ける意味を込めて2個のみかんを持参する習慣が根付いている。旧正月当日や前日に渡すのが一般的であるが、近年はパイナップルタルトやバクア（乾燥させた牛肉、豚肉を甘辛いタレをつけて炭火で焼いた中華風のジャーキー）などの正月ギフトとともに、箱入りみかんを事前に贈るケースも増えている。

特に贈答用としては、日本産みかんが外観の美しさと際立つ甘さから「高級ギフト」として評価され、高価格帯でありながら安定した需要がある。デパートや日系スーパーの店頭には、縁起の良い赤い箱に収められた日本産みかんが多く並んでいる。

旧正月は日本産みかんの魅力を現地に強く印象付ける絶好の機会であり、みかんの産地である本県としても、この好機を捉え、積極的な発信・売込を図っていきたい。



中国駐在員報告

駐在員：石川 祐介

経 済

「今」だからこそ伝わる静岡県の熱意 ～中国旅行社ファミトリップを開催～

1月9日～14日、上海事務所は中国の旅行社16社を静岡県に招へいし、商品造成を目的とした視察ツアー（ファミトリップ）を行った。5泊6日の行程は、スズキ歴史館など浜松市内からスタート。掛川花鳥園、駿府匠宿、駿河湾フェリー、伊豆シャボテン公園、MOA美術館など県内を横断しながら県内の人気観光スポットを訪れたほか、静岡市内のホテルでの県内事業者16社との商談会も開催し、80名以上の参加者・関係者が集う会場は、大変な熱気に包まれた。



駿河湾フェリーを視察する旅行社

参加した各旅行社によると、11月からの急速な日中関係の悪化に伴い、日本への団体旅行は顕著に落ち込んでいるものの、6～8名程度の小規模グループ旅行は富裕層を中心に底堅い販売が続いているという。

一方、主力商品が団体旅行である旅行社の中には、減収のダメージを補おうと常連の顧客から要望を募り、日本に買い出しに行く代购（代理購入）で糊口を凌ぐ会社もあるようだ。現在の円安に振れた為替レートでは、日本で欧米ブランドのバックやダウンジャケットを30万円で購入し、中国に持ち帰れば5～10万円の差益が出ると言い、哺乳瓶や粉ミルクなどの赤ちゃん用品、肝機能に効果のある健康保険食品などをまとめ買いで収益を補っている。

現在のような政治的な要因で中国からの旅行者が減少する時期にファミトリップを実施することには、効果を疑問視する声があったのも事実だ。それでも、三島市内のホテルでは4団体の送客に向けた商談が進んでいるほか、熱海市内の美術館では年度内の送客に向けた商談が開始されるなど、即効性のある効果も現れている。

また、中国の各旅行社からは静岡県のファミトリップ開催に感謝の声が寄せられたが、特に印象的だったのが、「今」ファミトリップを行ったことに対する評価の声だ。

<旅行社コメント（一部抜粋）>

日中関係の悪化で日本ツアーの売上を伸ばせない中、各社の日本担当は苦しい状況を耐えながら関係改善を待ちわびている。他方、日本ではオーバーツーリズムの問題も生じており、中国からの旅行者が歓迎されていないとさえ感じることもある。

こうした中国の旅行社が本当に苦しい「今」、静岡県はいち早く自治体・県内企業が一体となって中国の旅行者を迎えようとする熱意に深く感動した。中国では患難見真情（苦しい時に真の感情が見える＝苦しい時の友こそ真の友）という。我々はこの恩を決して忘れず、静岡県への送客によって恩を返したい。

日本のメディア報道のみで判断すれば二の足を踏むこの時期のファミトリップ開催。現地の空気感が読めるからこそ打てる一手は、海外事務所が果たす大きな役割と言えるだろう。

韓国駐在員報告

駐在員：石ヶ谷 彰英

経 済

チェジュ航空静岡路線の好調と「静岡の価値」

チェジュ航空が運航するソウル～静岡路線の利用状況が極めて堅調に推移している。2025年（令和7年）11月および12月の月間搭乗者数はともに2万人を超え、搭乗率は約9割という高い水準を記録した。静岡路線の特徴である「他路線に比べ日本側の利用者が多いこと」が理由として挙げられるが、最大の原動力は韓国側からの安定した訪日旅行需要にあると考えて相違ないだろう。

日本政府観光局（JNTO）が2026年1月21日に発表した2025年の訪日外国人客数（推計値）によれば、韓国からの訪日客は前年比7.3%増の約946万人に達した。12月に急減した中国を抑え、4年連続で首位を維持している。2024年の実績が約882万人と報じられた当初は、人気の東京・大阪・京都を訪問先とする旅行需要も飽和状態に達し、これ以上の増加は見込めないという予測も一部でなされていた。しかし、実際には増加する結果となった。

この理由の一つには、JNTOが2025年より本格化させた日本の「小都市」を対象とするプロモーションの効果が考えられる。大都市のオーバーツーリズムを緩和し、地方ならではの魅力を紹介するこの方針が、静岡への誘客にも寄与しているようだ。その変化を顕著に示しているのが、最近の動画サイトだ。従来の定番観光地紹介に代わり、現在は静岡を含む地方都市のVlog（ビデオブログ）が実に数多く投稿されている。

静岡を舞台にした動画を見ると早朝にソウル仁川（インチョン）空港を出発した旅行者が富士山静岡空港に降り立ち、バスやレンタカーに乗り込む。そして、富士山の景色を眺める穴場として県庁別館の21階展望台やJR富士駅前の商店街を訪れたり、大都市の店舗よりもじっくりと買い物を楽しめるデパートやディスカウントストアを利用したりといった様子が描かれている。また、宿泊先から近い店でおでんや焼き鳥を味わい、帰りに夜遅くまで開いている店で弁当を購入するといった「飾らない日常の街の風景」を旅の記録として発信しているのだが、韓国からの旅行者のカメラによって、見慣れた風景が非常に魅力的に見えるのは気のせいだろうか。

様々な機会を捉え、多角的に展開したソウルでのプロモーションやインフルエンサーなどによる静岡旅行体験ブログによる情報発信といった活動が、これまで「通過点」としての側面が強かった静岡を「目的地」へと転換させるきっかけになったと考えても良いだろう。

実際に大手旅行予約サイトが2025年10月に公開した利用動向調査によれば、富士宮市の宿泊予約件数は前年同期比38倍を記録したことが、韓国の複数のメディアでも報じられた。

訪日リピーター層が厚い韓国市場において、こうした地方分散の流れは一過性の現象ではなく、成熟した旅行の楽しみ方として定着しつつあると言えよう。

今年3月30日（月）からは静岡と釜山（プサン）を結ぶ定期路線が2か月の予定で期間運航されるため、ソウル首都圏以外からも更なる静岡への旅行客増加が見込まれる。

旅先でのゆったりと過ごしたいというニーズを背景に、静岡への路線はその位置を着実に高めているところだ。路線拡充によって、新たな誘客と交流拡大をより一層期待したい。

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

台湾日本人会・台北市日本工商会の新年会に頼清徳総統が参加

1月14日、台湾日本人会・台北市日本工商会主催の新年会が開催された。台湾に拠点を置く日本企業や、日本と関連のある台湾企業などが招待され、毎年400人ほどの参加者で賑わう非常に規模の大きな会だ。弊所も毎年招待をいただいております、さまざまな業種の方々と交流できるこの機会を大変楽しみにしている。

同会には毎年、総統が来賓として臨席されている。一昨年は蔡英文総統、昨年と今年は頼清徳総統がお越しになり、台湾と日本との関係性は過去最高と言えるぐらい良好な状態であること、台湾は日本との交流をより一層促進したいと考えていることなどをお話されていた。日本人会が主催する新年会は世界各地で行われていると思うが、今回のように、相手国・地域の元首が直々に日本人会の新年会に足を運んでくれるケースは珍しいのではないだろうか。台湾が日本との交流を非常に重視していることの表れだろう。台湾側の熱い思いに応えられるように、弊所でもより一層、台湾との交流促進に努めていきたい。

なお、同会ではイメージ画像として、富士山の龍巖淵と桜の画像を使っている。一昨年弊所が同写真を台湾日本人会に提供したところ、非常に気に入っていただき、それ以降イメージ画像として使ってもらえることになった。富士山が日本の象徴であることを改めて感じる事ができ、大変嬉しく誇らしい気持ちになった。



【龍巖淵と桜の画像】

社会・時事

台湾の炎上事例から見る「繁体字」への強い思い

12月16日～18日、県内3か所で「静岡県海外駐在員帰国報告会」が開催された。今年もこれまでと同じく、「台湾で主に話されているのは中国語（台湾華語）であり、台湾語ではない」「中国語と台湾語は全く別の言語」「中国語には繁体字と簡体字があり、台湾で使用されているのは繁体字」という話をさせていただいた。この違いを理解していなかったり、「どちらでも通じるだろう」と軽く見たりしていると、せっかくのプロモーションが意味をなさないどころか炎上してしまい、逆効果になるからだ。

先日、台湾企業である「小北百貨」が掲げていた垂れ幕に簡体字が使われていたため市民から批判が殺到し、企業側が急遽撤去したと報道されていた。ニュースで紹介されたSNS上のコメントには「台湾企業なのに簡体字を使うなんて」との声が多数あり、台湾の人たちからの強い嫌悪を感じた。

台湾の人たちにとって、言語や文字は彼らのアイデンティティに直結するもの。台湾と深く関わる立場にある者として、台湾の文化や歴史を理解し尊重する気持ちを、常に忘れないようにしたい。

【簡体字使用による炎上を報じるニュース】



静岡県 海外駐在員事務所

●東南アジア駐在員事務所（シンガポール）

住所	12 Eu Tong Sen Street, #04-168 The Central(SOH02), Singapore 059819		
電話	+65-6221-0432	FAX	+65-6221-0477
URL	http://shizuoka.sg/		
E-mail	fujinokuni@shizuoka.sg		

●中国駐在員事務所（上海）

住所	上海市長寧区延安西路 2201 号 国際貿易中心 2611 室		
電話	+86-21-6275-0909	FAX	+86-21-6275-8856
URL	http://www.shizuokash.com		
E-mail	ilfjs@shizuokash.com		

●韓国駐在員事務所（ソウル）

住所	韓国ソウル特別市中区南大門路 117 東亜ビル 11F シェアオフィス「MOA」1106 号室		
電話	+82-2-777-1835	FAX	+82-2-777-1837
URL	http://shizuokaseoul.com/ https://blog.naver.com/goshizuoka		
E-mail	shizuoka@shizuokaseoul.com		

●台湾駐在員事務所（台北）

住所	台北市中山区南京東路二段 137 号 連邦商業ビル 13 階		
電話	+886-2-2508-1515	FAX	+886-2-2503-5303
URL	http://www.shizuoka.org.tw/		
E-mail	shizuoka.tw@gmail.com		

<日本での連絡先>

静岡県 企画部 地域外交課

住所：静岡市葵区追手町 9-6

電話：054-221-2572 FAX：054-221-2542

E-mail：kokusai@pref.shizuoka.lg.jp